

◆2024年10月9日発行ラインナップ◆
 ・地球温暖化影響調査レポート（R5年）
 ・人生100年時代と時間に思いを馳せて

地球温暖化影響調査レポート（R5年）

農林水産省から「令和5年地球温暖化影響調査レポート」が9月30日に公表された。

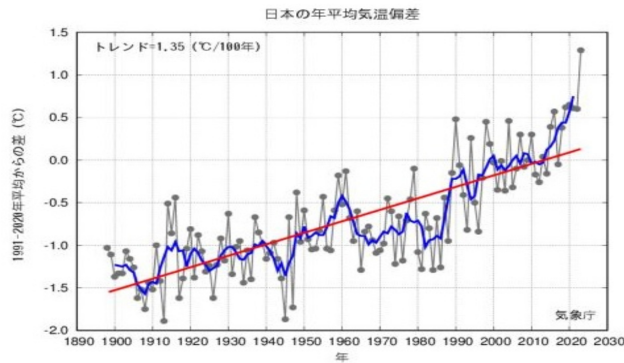
令和5年の年平均気温偏差は+1.29℃で1989年の統計開始以降最も高い値となった。長期的には100年当り1.35℃の割合で上昇しているとのレポートだ。

また気象庁発表の令和6年10～12月の天候の見通しでは気温は平年並か高い見通しようだ。令和6年も春から暑さが続き、5年より平均気温偏差は高くなりそうだ。農業もますます温暖化対策が喫緊の課題となっており、様々な対策を各県で講じている。

水稻の適応策では、水管理の徹底が最も多く、適期移植、適期収穫、肥培管理等が行われている、また高温耐性品種も39府県で作付けされており令和5年では主食用米作付け面積の14.7%となり年々増えている。

公表されている高温耐性品種を下記紹介する。（図※1）また特筆すべきは「うんしゅうみかん」で「日焼け果」が全国で3割程度みられたようだ。更に「浮き皮」「減酸の早まり」「着色不良、着色遅延」「虫害の発生」など様々な影響をうけている。そのような気象状況の中で山形県庄内地域では耐寒性があり、品質が優れている「すだち」が平成29年から導入されており、長野県では「レモン」で取組実証中である。また「さつまいも」は北海道で普及中（2023年栽培面積100ha）、秋田県では適応品種等の栽培実証に取り組み始めている。全国の様々な取組や適応策の関連予算が紹介されているので興味ある方はレポートをご覧ください。

北海道で「きらら397」がデビューして35年になる。北海道のお米のイメージを大きく変えた品種である。その後「ななつぼし」「ふっくりんこ」が導入され、2009年「ゆめぴりか」がデビュー、2011年に「ゆめぴりか」「ななつぼし」が食味ランキング「特A」を獲得。全国的に北海道米の知名度をあげることになった。今後北海道のお米のように、今まで厳しい自然環境で栽培できなかった



注 細線（黒）：各年の平均気温の基準値からの偏差
 太線（青）：偏差の5年移動平均値
 直線（赤）：長期変化傾向
 基準値は1991～2020年の30年平均値

出典：気象庁(https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_jpn.html)

【高温耐性品種の作付状況】

品種名	作付面積 (ha)					作付けの多い上位3都道府県
	R1	R2	R3	R4	R5	
きぬむすめ	20,446	21,986	22,368	22,656	22,549	島根県、岡山県、鳥取県
こしいぶき	20,800	20,200	20,100	19,600	18,300	新潟県
つや姫	11,580	16,301	17,106	17,303	17,823	山形県、宮城県、鳥取県
ふさごがね	11,626	12,600	11,800	11,900	11,700	千葉県
とらぎの星	4,500	6,100	9,000	7,200	8,500	栃木県
あきさかり	5,640	7,960	8,930	7,655	8,361	広島県、徳島県、福井県
にこまる	6,042	7,475	7,400	7,495	7,913	長崎県、静岡県、岡山県
彩のまきずな	5,200	6,300	6,600	6,500	6,900	埼玉県
元気つくし	6,230	6,630	6,430	6,170	6,310	福岡県
さがびより	5,340	5,360	5,380	6,060	6,220	佐賀県
ハナエ子ゼン	(6,092)	(5,969)	(5,850)	(5,859)	6,100	福井県
夢しずく	(6,230)	(6,400)	(6,210)	(5,990)	5,750	佐賀県
なつほのか	1,076	1,838	2,500	4,058	5,287	長崎県、大分県、鹿児島県
ゆきん子舞	4,800	5,300	5,300	5,200	5,200	新潟県
新之助	2,600	2,900	3,300	4,300	4,800	新潟県
雪若丸	2,704	3,500	3,800	4,000	4,500	山形県
ふさおとめ	6,728	6,900	5,900	4,800	4,200	千葉県
てんなかく	4,000	3,900	3,900	3,802	3,602	富山県、大阪府
にじのきらめき	-	-	664	1,179	3,406	茨城県、静岡県、群馬県
みずかがみ	3,208	3,303	3,310	3,162	3,113	滋賀県
ゆまんの輝き	-	436	613	(1,355)	2,910	熊本県
てんこもり	2,600	2,700	2,650	2,812	2,787	富山県、神奈川県
はれわたたり	-	-	-	85	2,200	青森県
それ以外	10,747	11,535	13,701	14,066	14,505	※2,000ha未満
計	135,867	153,224	160,752	160,006	182,936	
主食用作付面積	1,379,000	1,366,000	1,303,000	1,251,000	1,242,000	
高温耐性品種が占める割合(%)	9.9	11.2	12.3	12.8	14.7	

注1：高温耐性品種とは、高温にあっても玄米品質や収量が低下しにくい品種をいい、本表は、地球温暖化による影響に 대응することを目的として導入された品種について、都道府県から報告があったものを取りまとめたものである。「-」は、作付けがないもの、作付けていても、高温耐性品種として報告がなかった場合を含む。
 2：作付面積には推計値も含まれる。
 3：主食用作付面積は作物統計による。
 4：「その他」は、都道府県から報告があった品種のうちR4年産で作付面積が2,000ha未満のものは合算して表記している。
 5：「その他」の一部酒米が含まれるが、主食用作付面積に高温耐性品種が占める割合の算出では除外している。
 6：都道府県からの修正によりR4年産の高温耐性品種の作付面積を修正している。
 7：()内の数値は、過去に報告がなかったため、合計から除外している。

※1：出典 農水省「令和5年地球温暖化影響調査レポート」(<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kanky/ondanka/index.html>) より

(次ページへ続く)

(前ページより続く)

作物が北上し、大産地となることも考えられる。そうなれば我々肥料商が販売する肥料も自ずと変えていかないといけない。

地球温暖化という従来の作物栽培の目の前のピンチを肥培管理や栽培作物の転換によってチャンスに変えていこうではありませんか！

～人生100年時代と時間に思いを馳せて～

最近マスコミで目にする「人生100年時代」、いつ頃から耳にするようになったのか調べてみると始まりは英国学者リンドン・グラットンが提唱した概念だとか。2016年の同氏著書「LIFE SHIFT」の中で「2007年生まれの2人に1人が100歳を超えて生きようになり、これまでと異なる価値観や人生設計を描くべきである」と。そして日本での広まりは、小泉進次郎代議士による引用をきっかけとして、政府や行政など様々な場面で用いられるようになったようだ。

人生100年と言っても人それぞれ浮かぶイメージは異なるのではと思う。そこで、単純ではあるが人生時計で考えてみると、こういった感じだろうか？

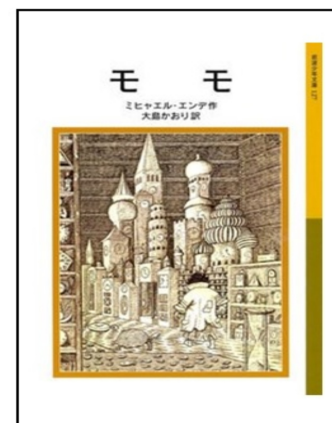
- 20歳・AM4:50 夜明け前「まだまだ寝ていたい…」
- 30歳・AM7:10 朝食と出勤「よし、今日も張り切って行こう！」
- 40歳・AM9:40 仕事始め「朝からメールと電話が多いな、ありがたい事だ！」
- 50歳・PM0:00 昼食「今日もバリバリ食べて、昼からも頑張ろう！」
- 60歳・PM2:20 外出「ちょっと休んで気分転換♪」
- 70歳・PM4:50 あと少し「今日も働いた～、帰ったら何しようかなあ～」
- 80歳・PM7:10 団らん「子供と風呂に入って晩酌♪」
- 90歳・PM9:40 夜景鑑賞「今日も素敵な星空だなあ～」

そう、一昔前の定年60歳はまだ日が高く、70歳でも夕暮れ前、それから自分だけの楽しい時間が長く残っているのだ！読者の皆さんは何時頃だろうか？

話は大きく変わるが、皆さんは児童書「モモ」を読まれた事はあるだろうか。時間どろぼうに盗まれた時間とそれを取り戻そうとする少女の物語、50年近く前に書かれた小学生向けの本ではあるが大人になっても「時間」をしっかり考えさせられる。特に作中に描かれる時間のない大人たちは現代日本のサラリーマンに重なって仕方がない…。

そして、主人公を導くセリフ【時間とは生きるという事そのもの、そして人のいのちは心をすみかとしている。人間が時間を節約すればするほど生活はやせほそっていくのです。】忙しさとその先にある何かについて感じることはないだろうか？

人生100年、人それぞれに多様な過ごし方があり享受する生活も様々であるが、ただ一つ過ぎていく時間だけは全く平等。皆平等に過ぎ行く時間、折角なら仲間や家族や友人たちとの時間共有が豊かな歩みに繋がるのでは！そんなことを考えながら、令和の今日も特販部は飲みニケーションとゴルフケーションに勤しんでいる。ご興味ある方は是非ご参戦を！（特販部）



先日、滋賀県で開催されたイナズマロックフェスへ行ってきました。大勢の方が琵琶湖へ集まっており、大盛況な地域活性化を目の当たりにし大変貴重な時間となりました。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>